

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 育保の杜
施設名	第2はぐくみ保育園
報告者（役職）	月岡 由佳理（園長）
住所・連絡先	愛知県春日井市下市場町 4-14-1
	☎ 0568-90-8989 E-mail hagukumi.ikuho@gmail.com

○タイトル（保育計画）

保育の中の絵本

○主な助成備品

絵本・図鑑

1. 保育計画策定の目的

私たちが子どもの頃、幼稚園や保育園、家庭でも絵本を読んでもらう機会は多くありました。絵本から多くを知り学び、想像して楽しんだり大好きな本を自分で見つけてきたものですが、その頃と現代とでは子どもたちを取り巻く環境も変化してきています。共働きが当たり前になり、大人たちも保育園から帰宅して夕飯の準備、洗濯などの家事に追われて時間の余裕が取れず、毎日忙しく働いています。昔のように子どもとゆっくり絵本を一緒に読む時間よりも子どもが1人で動画などを見ている時間の方が多いと感じています。絵本は現代の子どもたちが自由に開き想像する事を楽しんだり学ぶことができる大切なもの、毎日忙しい保護者と絵本を見ることが減ってしまった子どもたちが身近に感じられる物、そして保護者・保育者も絵本を生活や活動の一部に取り入れる大切さを感じてもらえることを目的に絵本の充実を計画しました。

2. 具体的な実施内容

- ① 1日の保育の中で1冊以上必ず絵本の読み聞かせをする
- ② 子どもたちが絵本に親しみを持てるよう保育士はクラスの好みや成長に合った絵本選びを行う
- ③ 絵本の世界を行事に取り入れる
- ④ 親子のコミュニケーションの場所を作り絵本に接する機会や時間を促す

① 1日の保育の中で1冊以上必ず絵本の読み聞かせをする



令和5年に開園した本園では初年度は乳児クラスまでの受け入れで、毎年ひと学年ずつ幼児クラスが増えていく計画で始まりました。そのような状況で長期的に全クラスが取り組めるよう1日の保育の中に絵本を必ず1冊は読み聞かせることに決めました。これは本園が所在する愛知県春日井市の一園一研究という研修課題でもあり、大きなねらいとして年齢に合った絵本選びとしました。このねらいも含め保育士が活動の導入や朝の時間など、各クラスの保育の中に絵本の読み聞かせを組み入れ、どのような目的でその絵本を選び、子どもたちの様子を見たりしながら保育士が試行錯誤することでより良い絵本の提供を意識しました。新卒の保育士は年齢に合っているのか、子どもたちがどうしたら集中して聞いてくれるのかなど考える機会となりました。



② 子どもたちが絵本に親しみを持てるよう保育士はクラスの好みや成長に合った絵本選びを行う



0歳児クラスは布製の絵本を置いたり、原色が多く使われている絵本を選んで手に取りやすいよう置き方にも工夫しました。

内容も擬音や音が出るものや丈夫な絵本を中心にしてハイハイで絵本に向かって進み、ページをめくれるようなものを選ぶようにしました。

1歳児は毎朝、出席を取る時間の前に読み聞かせを行ってきました。習慣化されてくると保育士が読み聞かせの準備を始めると、自分からマットに集まってくるようになりました。このクラスの子どもたちは保育士に読んでもらうことが大好きです。



2歳児クラスは自分の好きな絵本を見つけるようになりました。

簡単な単語の絵本やお話は自分で絵本を開き保育士の真似をして人形に見せたりする姿がみられました。保育士は読み聞かせの時間を長くしたり、お話から物語を徐々に増やし集中時間を長くしていけるように心がけました。

③ 絵本の世界を行事に取り入れる
(運動会)



クラスで大人気の絵本の一部を運動会の競技に取り入れました。

子どもたちは絵本の延長のようにスムーズに取り組み始めることができました。

絵本名：〈いないいないばあ〉 〈おべんとうばす〉

(夏祭り・ハロウィン)



絵本名：〈きんぎょがにげた〉

「きんぎょがにげた」は令和5年度の通年で使われた絵本です。

0歳から2歳までの子どもたちが好きな絵本の中から保育士が話し合い、子どもたちみんなが分かるものを題材にし、絵本の世界に入りやすく楽しめるものとして選びました。

夏祭りのコーナーでは大きなきんぎょ鉢に、取り外しができるようにしたきんぎょを保育室の色々な所に逃がして子どもが探し見つけ鉢に戻す遊びを提供しました。同じ要領でハロウィンではかぼちゃが紛れていたり、金魚が部屋を飛び出して違う部屋に逃げてしまったりとパターンを変えて1年中子どもが遊べるものになりました。

④ 親子のコミュニケーションの場所を作り絵本に接する機会や時間を促す
〈フリースペース〉



当園は玄関ホール横に子どもたちにも親しんでもらえるよう「はぐのもり」と名付けたフリースペースがあります。絵本棚と親子で座れるベンチ絨毯が常設され保育中の絵本の時間にも活用してきた場所です。日々の保育活動を通して子どもたちは、はぐのもりにはお部屋にはない絵本があることや自分では読めないけど、読んでもらいたい絵本がある場所だと認識し始め、お迎え時に子どもたちが保護者に「これよんで」と持っていくことが出来るようになりました。また、保護者には子どもたちが絵本を選んで来たら、それに応じて座って読んだり、担任以外の保育士や保護者同士のコミュニケーションの場として、はぐのもりは活躍しています。

3. その結果と評価

- ① 1日の保育の中で1冊以上必ず絵本の読み聞かせをする
- ② 子どもたちが絵本に親しみを持てるよう保育士はクラスの好みや成長に合った絵本選びをする



令和5年度6年度と毎日絵本の読み聞かせを行ってきました。2歳児クラスから3歳児クラスへ進級する頃には、絵本が好きな子どもたちになりました。

2歳児クラスの時読み聞かせ中に気がそれてトラブルが起きたりしていましたが、お話に集中する力が出来始め、大きなトラブルになることはほとんど無くなりました。

3歳児クラスは個人に月間絵本を導入しました。

ひとり1冊ずつみんなで読めるようになり、読み聞かせとは違う楽しさが加わりました。子どもたちも自分専用の絵本を嬉しそうに見ていました。少し文字に興味を持ち始めた子もいました。



子どもたちが好きな絵本を広げると、まだ言葉が上手に話せない1歳児も一緒に言おうとしたり、文章を覚えて語尾をまねして楽しんでいました。新品だった絵本も厚みが変わるほどの人気でした。

③絵本の世界を行事に取り入れる



夏祭りや運動会、ハロウィンなどの行事の時に絵本を題材とした事は保護者にも大好評でした。

子どもたちも各学年で好きな絵本は違いましたが、登場人物になりきって障害物競技に参加したり、仕掛けを楽しみに親子で楽しんだり、自分で選択をして絵本の中に入った気分になったりと嫌がることなく、スムーズに運動会の取り組みができました。他の学年が行った競技が子どもにも好評で、誕生会にも登場し余韻を楽しむことができました。

④親子のコミュニケーションの場所を作り絵本に接する機会や時間を増やす



はぐのもりは子どもたちが絵本を読んでもらおうと嬉しそうな顔をしながら過ごすことのできる場になり、また、子どもを通して保護者同士の交流の場にもなり、お迎えの時間にはいつも大盛況な場所になりました。

4. 今後の課題と展望

子どもたちが少しずつ絵本に親しみを持ってくれるようになり、保護者にも今回の園の取り組みについて認知されてきたと感じています。将来的には絵本の更なる増量と自宅でも絵本を読むことを推奨し貸し出し絵本をしていきたいと考えています。そのうえで課題として「本棚の中の整理整頓、大切に扱うことです。」子どもが自ら絵本を出し入れし扱うことで親しみを持ってくれていますが、すべてを子ども任せにすることなく保護者も一緒に物を大切に扱うことを1つの課題として取り組んでいきたいです。

また、幼児のクラスは物語の想像やごっこ遊びの充実、文字への興味関心から、自分で読める楽しさを感じられるよう、保育士も絵本についての学びが得られるよう、環境整備を行いながら、長期的に取り組んでいきたいです。

以上